

すべての学校種において、「学力向上」は永遠のテーマであろう。そこで、ALを学力向上につなげるために考案したのが「R80」である。

本校では、この「R80」がかなり浸透しており、前述の「AL公開授業」ではほとんどの授業で活用されている。「主体的・対話的な活動」の直後に実施すると、生徒たちは3〜4分間で書き上げている。さらに、本校では授業だけでなく、研究所見学・大学見学といった学校行事の「振り返り」にも「R80」が使われている。

読者の皆さんのなかには、「並木中等だからできるのでは？」と思われる方がいるであろう。実は、すでに「R80」は、県内外の学校で活用され始めており、すべての学校で実施が可能であることがわかってきている。就職者中心の高校の生徒が、「R80」によって文章を書けるようになってきたことで自信を深め、たいへん喜んでいるといふ報告ももらっている。

※私の考案した「R80」の

資料1 R80の様式

R80 (アールエイティー)	
年組	氏名
課題・タイトル	
下書き	
FREE①	
FREE②	
R80に関する解説	
基本事項	R80の読み方は「アールエイティー」です。 Rは、リフレクション(reflection)と、リストラクチャー(restructure)のRです。 80は、80字以内で書くという意味の80です。
基本的な使用方法	①アクティブ・ラーニング(AL)の直後に「リフレクション(振り返り)」として、ペアやグループで話し合ったことを、自分でリストラクチャー(再構築)して、80字以内で書きます。 ②必ず、2文(2センテンス)で書き、2文を接続詞で結びます。 ③下書き欄やFREETの使い方については、先生の指示を受けてください。
使用する接続詞の例	● 接続(したがって、ゆえに、だから) ● 逆接(しかし、だが、ところが) ● 並列(また、ならびに、かつ) ● 対比(一方) ● 譲歩(つまり、すなわち) ● 理由説明(なぜなら) 他

様式のエクセルデータとPDFについては、本校ホームページ上の「AL宝箱」(http://www.naniki-csibk.ed.jp/?page_id=532)に入っているのので、ダウンロードをして自由に使っていたらいて結構です(資料1)。

◆アクティブ・ラーニングによる校内の変容

本校の生徒たちは、本来勉強することが好きである。また、先生方の教育に対する情熱

もすばらしい。したがって、ALの導入はたいへん順調に進んでいると思われる。

私は、本校着任当初の「始業式」「入学式」においてもALの話をしており、「アクティブラーナー」になってほしいと言いつづけているので、生徒たちにもALの視点が浸透しているようである。さらに、平成28年9月30日の終業式では、パワーポイントを使って、30分間のAL型校長講話を実施した。ペアワークやグループワークを駆使し、インタビュ어도入れたALセミナーは、たいへん盛り上がり、私自身も楽しかった(写真)。

私は、研修会講師を頼まれると、まとめの部分で「ALが授業を変える」「ALが生徒を変える」というよく使われるフレーズに加えて、「そして、ALで学力向上」「さらに、ALで先生方が変わる」と話している。

私の考えるALの目的は、「アクティブラーナー」を育成することである。そして、その基盤となるのは「リスペクト」「協働」「アウトプット」だと考えている(資料2)。私は、数多くのALを見学して、ALには生徒同士、生徒と先生の間でのリスペクトが最も大切だと感じている。

「アクティブラーナー」になると、毎日が明るく楽しく充実する。そして、「アクティ

写真 AL型校長講話



「ブラーナー」ならば、AI（人工知能）等の発達により大きく変化する未来にあっても、柔軟に対応していけると、私は信じている。

◆アクティブ・ラーニング実施にあたってのアドバイス

最後に、私が校長として何をしているかということを記す。

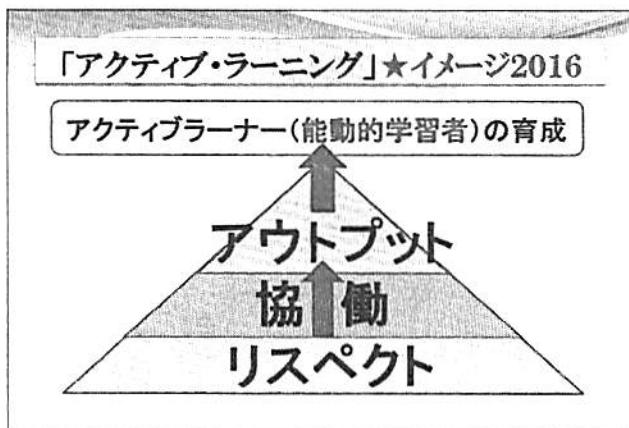
まず、「学び続ける校長」を目指して、ALについて、セミナーへの参加や書籍等により研究を続けている。校長室の本棚にあるA

L関係書籍は、すでに60冊を越えている。そして、校長ミニ研修会（職員会議冒頭10〜20分程度）で先生方に情報提供をしている。

なお、平成28年5月には、ALに関する環境整備として「ALタイム」と「後方の電波時計」を「フルタイム2」と「後方の電波時計」を全教室に設置した。さらに、生徒ホールを、大学でつくられ始めた「ラーニング・コモンズ」に改造しているところである。

また、先生方に東京での「AL関係セミナー」への参加を推奨している。教員の世界は意外と狭いので、視野を広げる意味でも、と

資料2 ALの目的



くに企業が主催するセミナーを勧めている。管理職の先生方に一つお願いがある。AL未体験の保護者の方には、授業参観のときに、AL型授業が「授業中に生徒が話をしていく」「先生が授業をしていない」といったマイナスイメージにうつる可能性がある。そこで、ALを推進している学校の管理職は、PTA総会等でALについて、保護者の方にしっかり説明する必要がある。

学校における授業改善は、たいへんむずかしいテーマである。先生方は、教育のプロであるので、従来のスタイルを変えるには、勇気と決断を要する。したがって、授業改善は、「ボトムアップ」がベストである。そのため、管理職は「種蒔く人」であってほしい。

昨年度1年間勤めた茨城県立牛久高校で、少し蒔いたALの種は、生徒と先生方が見事な花を咲かせている。本校でも、私は「種蒔く人」であり続けたいと思っている。

平成28年4月6日より学校ホームページに、平日ほぼ日刊で校長通信「並木ドリーム」を配信している。本校のALの取り組みの記事もあるのでご覧いただければ幸いです。

われわれは今、明治維新以来とも言われる教育改革のなかにいる。ぜひ、一緒に「子どもたちの未来のために」がんばりましょう。